

研究部だより

令和2年8月19日(水) No. 6

研究部(牧野, 早坂)

夏の学びを振り返って

夏休み前に現職教育研修会, 問題解決力チーム研究部打合せ, カリキュラム・マネジメントオンライン研修会が実施されました。今回の研究部だよりでは, 先生方からいただいた感想をもとに, 学びを振り返ります。

7/27(月) 現職教育研修会 ~新学習指導要領に対応した学習評価~

- ・本校独自の評価をどう考えていくのか。
- ・指導と評価の一体化を図る点について, 子供の学習状況や学びの姿はその都度異なるのに, 教師側のアプローチはいつも同じになってはいないかと立ち止まって考えるきっかけとなると思う。我々の授業の指導のアプローチの仕方も子供の姿から見取って考えていかなければならないということが一番考えさせられたし, チーム研究でしたい部分とも重なったので今後に生かしていきたい。
- ・指導と評価の一体化のところを実際に行なっていきたい。私自身, 体育科通信の取組のおかげで, C→Aの部分, これまでできていなかったところに, 一定の取組の成果を感じていた。今回の話を受けて更に, この課題としてきた部分を解決していきたい。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価について, 大切なのはノートや発言からの関心というところだけでなく, よりよく学ぼうとする意欲を持っているかという観点だということ。



7/30(木) 問題解決力チーム研究部打合せ

【チーム研究の概要について】

- ・他教科にも汎用性のあるものだと感じた。
- ・問題解決力が育つ・発揮される授業づくりの手立てとして, 自らのめり込ませるための手立てに重きが置かれているため, 事象を自分事として引き寄せる手立ても考えていく必要がある。

【生活科全校授業について】

- ・大豆を教材とした意義(栽培から加工まででき, 一つのストーリーとなること)を明確にする必要がある。
- ・問題解決力チームの授業である以前に生活科の授業である。生活科で大切にすべき「気づき」や「発見」の質がどう変わっていくか, 生活科の本質に迫る授業をつくっていく。

8/4(火) カリキュラム・マネジメントオンライン研修会

- ・冒頭で「コロナ以前に戻してよいのか」という言葉があり, とても考えさせられた。教室で30人の子供たちと一斉授業をすることが当たり前になっていたなと反省させられた。もっともっと子供たちの学び方には多様なスタイルが存在してよいのだと思った。附属小の研究が進む方向の中にも, 学びのスタイルの在り方という視点が少しだけ加わってもいいのかもしれないと感じた。
- ・教師が学びの文脈を生み出すのではなく, 子供が自力で学びの文脈を把握できる必要があることという言葉がとても印象に残った。子供が文脈を把握するためにも自分の力ほどの程度なのか「メタ認知」する力も必要になってくる。そういった力も身に付けさせていきたい。
- ・子供は文脈にのせてあげれば, 自立した学習者となることができると学んだ。特に印象に残ったのは, 文脈(発展・応用)から入って, 基礎に下りていくという単元構成。文脈に学びが張り付いてしまう危険もあるので, 単元の中で学びを一般化するよう働き掛けることを意識しながら実践していきたい。



夏休みが明け, 全校授業や部内授業も本格的に始まります。夏の学びを日々の授業に, 子供たちに還元していけるよう目の前の子供を大事にし, 「体も心もたくましく, しかも, しなやかな子供」を育てていきましょう。 文責: 牧野